

令和6年度 学校評価アンケート結果と考察

葛城市立白鳳中学校

- ◎ 調査時期 生徒：令和6年11月13日（金）
教職員：令和6年11月6日（水）～15日（金）
保護者：令和6年11月6日（水）～15日（金）
- ◎ 調査方法 全てインターネット回答（GoogleFoamを使用）
- ◎ 調査人数 生徒452名（回答377名）
保護者回答255名
教職員回答35名
- ◎ 質問項目 ①学校運営・安全指導について3項目
②学習活動について8項目
③学校生活・規範意識について10項目
④人権教育等について5項目



令和6年度 学校評価アンケート結果

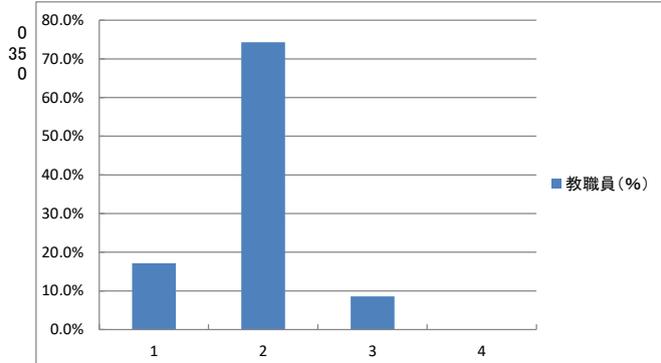
葛城市立 白鳳中学校

1=思う 2=ややそう思う 3=あまり思わない 4=思わない

① (教職員1) 充実した学校生活を送っているか。

回答	1	2	3	4
生徒人数				
教職員人数	6	26	3	0
保護者人数				
生徒(%)				
教職員(%)	17.1%	74.3%	8.6%	0.0%
保護者(%)				

肯定的回答率(%)	生徒	教職員	保護者
令和4年度		97.1%	
令和5年度		100.0%	
令和6年度		91.4%	

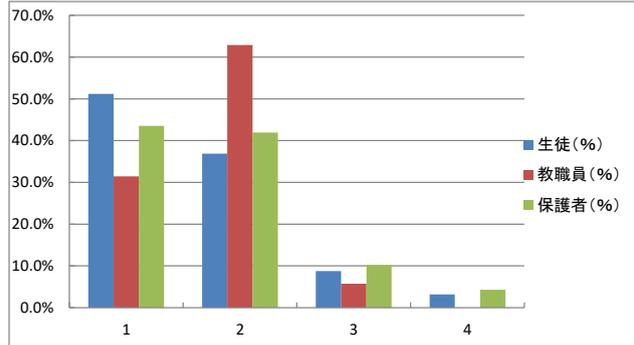


ほとんどが肯定的にとらえているが、昨年度より肯定的回答率の数値が大きくなり下がっている。近年にはなかった対応を必要とすることが増えた為と考えられる。この数字は、学習面だけでなく、様々な分野での我々の取組に対する自己評価と考えられるが、以下の質問の生徒と保護者の結果を分析して、今後の計画に反映させていかなければならない。

② (生徒2) 楽しく学校生活を送っているか。
(教職員2) 楽しく学校生活を送っているか。
(保護者2)

回答	1	2	3	4
生徒人数	193	139	33	12
教職員人数	11	22	2	0
保護者人数	111	107	26	11
生徒(%)	51.2%	36.9%	8.8%	3.2%
教職員(%)	31.4%	62.9%	5.7%	0.0%
保護者(%)	43.5%	42.0%	10.2%	4.3%

肯定的回答率(%)	生徒	教職員	保護者
令和4年度	82.5%	76.5%	82.9%
令和5年度	89.1%	100.0%	88.0%
令和6年度	88.1%	94.3%	85.5%

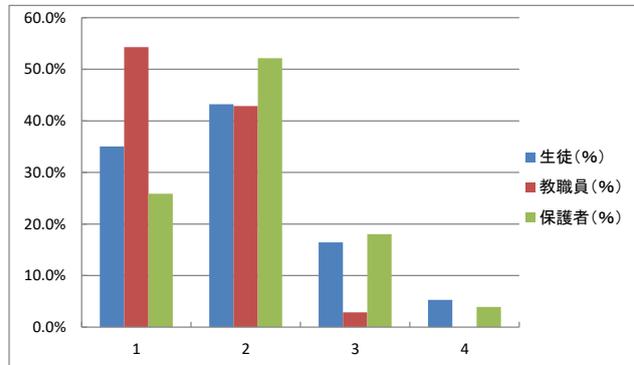


全ての回答において、肯定的回答率が昨年度より下がっている。特に教職員と保護者の数値が下がっているのは、①と同じ理由と考えられる。一定数の否定的回答を掘り下げて、よりよい学校生活になるように更なる改善を図る必要がある。

③ (生徒3) 学級や学校での様子を便りなどを使って、積極的に家庭に知らせているか。
(教職員3) 学級や学校での様子を便りなどを使って、積極的に家庭に知らせているか。
(保護者3)

回答	1	2	3	4
生徒人数	132	163	62	20
教職員人数	19	15	1	0
保護者人数	66	133	46	10
生徒(%)	35.0%	43.2%	16.4%	5.3%
教職員(%)	54.3%	42.9%	2.9%	0.0%
保護者(%)	25.9%	52.2%	18.0%	3.9%

肯定的回答率(%)	生徒	教職員	保護者
令和4年度	77.9%	91.2%	76.2%
令和5年度	76.5%	85.7%	77.3%
令和6年度	78.2%	97.1%	78.0%

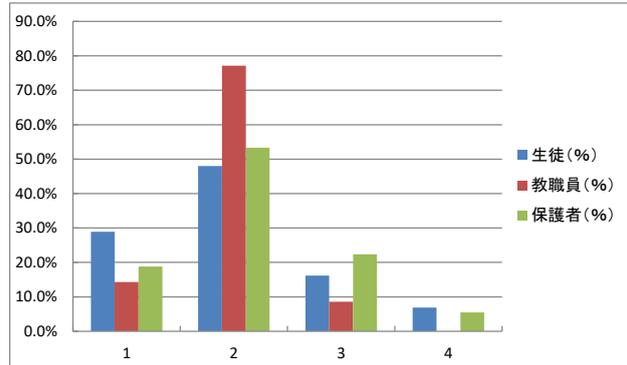


全ての数値が上がっているのは昨年同様tetoruの影響であると思われる。また、HPのアップ回数を昨年度は増やしたが、今年度はさらに各学年・管理職・教務などアップできる教職員を増やした。教職員に対するtetoruの内容確認の徹底は必要である。昨年度の課題であった、生徒に対して紙媒体での配布が減った事による周知不足の課題は各学年Classroomの活用を行う事により改善した。また、学級通信の発行回数も増えている。

- ④ (生徒4)
(教職員4) 安全な学校だと思うか。
(保護者4)

回答	1	2	3	4	
生徒人数	109	181	61	26	377
教職員人数	5	27	3	0	35
保護者人数	48	136	57	14	255
生徒(%)	28.9%	48.0%	16.2%	6.9%	
教職員(%)	14.3%	77.1%	8.6%	0.0%	
保護者(%)	18.8%	53.3%	22.4%	5.5%	

肯定的回答率(%)	生徒	教職員	保護者
令和4年度	87.8%	58.8%	77.1%
令和5年度	91.7%	94.3%	79.6%
令和6年度	76.9%	91.4%	72.2%

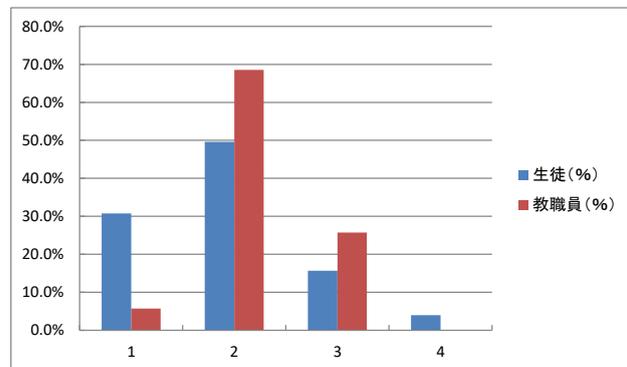


全体的に数値が下がっている。特に生徒の数値が大幅に下がっているのは、校内で器物損壊事象が起こり、全校に周知して学校として大きな課題として取り組んでいる事が理由と考えられる。今後は教職員の危機管理の意識を向上させる事は必須で、生徒の自主的な様々な危機管理に対する取組も促す必要がある。

- ⑤ (生徒5)
(教職員5) 授業の内容をよく理解していると思うか。

回答	1	2	3	4	
生徒人数	116	187	59	15	377
教職員人数	2	24	9	0	35
保護者人数					0
生徒(%)	30.8%	49.6%	15.6%	4.0%	
教職員(%)	5.7%	68.6%	25.7%	0.0%	
保護者(%)					

肯定的回答率(%)	生徒	教職員	保護者
令和4年度	81.1%	91.2%	
令和5年度	83.7%	80.0%	
令和6年度	80.4%	74.3%	

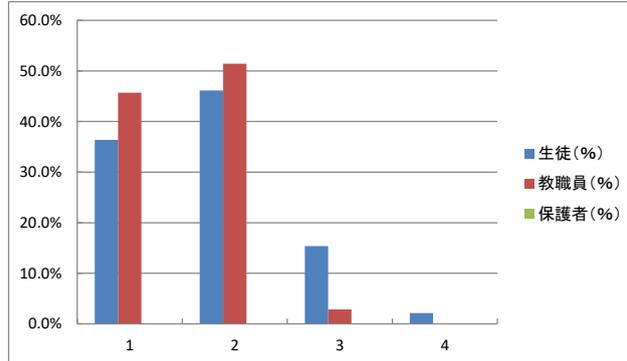


生徒・教職員ともに肯定的意見が減少している。昨年度は電子黒板が定着して、ICTを利用した授業改革が進み、生徒には授業がわかりやすい内容になったが、教職員は過去の経験から理解度が下がっていると感じていた。今後はICTの有効活用をさらに研究・研修して、否定的意見の生徒の意見を各授業の中で授業評価等を利用して、教職員が吸い上げる必要がある。

- ⑥ (生徒6)
(教職員6) 授業の中で、目標(めあて、ねらい)が示されているか。

回答	1	2	3	4	
生徒人数	137	174	58	8	377
教職員人数	16	18	1	0	35
保護者人数					
生徒(%)	36.3%	46.2%	15.4%	2.1%	
教職員(%)	45.7%	51.4%	2.9%	0.0%	
保護者(%)					

肯定的回答率(%)	生徒	教職員	保護者
令和4年度	77.4%	88.2%	
令和5年度	83.3%	100.0%	
令和6年度	82.5%	97.1%	

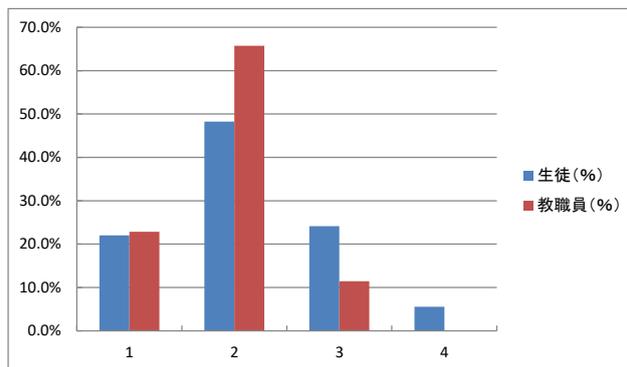


今年度は生徒・教職員ともに下がっている。特に教職員は昨年度100%であったのに下がっているのは授業の内容に対する意識の低下と見られて、大きな課題である。今後はめあて・ねらいを示すことはもちろん、めあて、ねらいの内容も踏まえて提示を必ずしなければならない。

- ⑦ (生徒7) 授業の最後に学習の振り返りの活動があるか。
(教職員7)

回答	1	2	3	4
生徒人数	83	182	91	21
教職員人数	8	23	4	0
保護者人数				
生徒(%)	22.0%	48.3%	24.1%	5.6%
教職員(%)	22.9%	65.7%	11.4%	0.0%
保護者(%)				

肯定的回答率(%)	生徒	教職員	保護者
令和4年度	68.4%	88.2%	
令和5年度	75.5%	97.1%	
令和6年度	70.3%	88.6%	

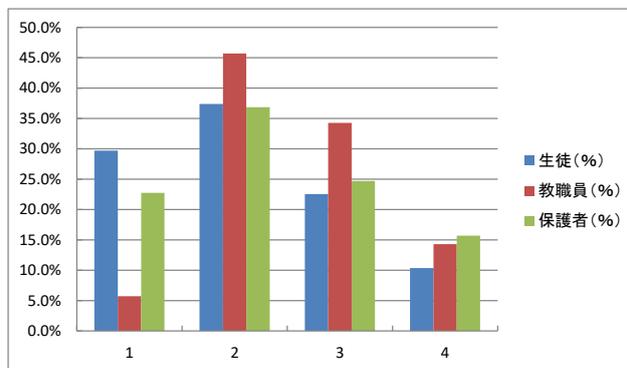


前質問と同様、生徒・教職員の数値が下がっているが、教職員の数字が大幅に下がっている。前質問同様、教職員の授業の質の向上が大きな課題であり、今後はめあて、ねらい、振り返りを必ず取り入れた授業計画を立てることは必須である。また、管理職や研修係からの声かけ、指導を行うためにも定期的な校内研修を行うことが必要である。

- ⑧ (生徒8)
(教職員8) 家庭で、自分から進んで学校の課題や予習などの学習をしているか。
(保護者7)

回答	1	2	3	4
生徒人数	112	141	85	39
教職員人数	2	16	12	5
保護者人数	58	94	63	40
生徒(%)	29.7%	37.4%	22.5%	10.3%
教職員(%)	5.7%	45.7%	34.3%	14.3%
保護者(%)	22.7%	36.9%	24.7%	15.7%

肯定的回答率(%)	生徒	教職員	保護者
令和4年度	59.2%	44.1%	65.7%
令和5年度	64.6%	45.7%	57.2%
令和6年度	67.1%	51.4%	59.6%

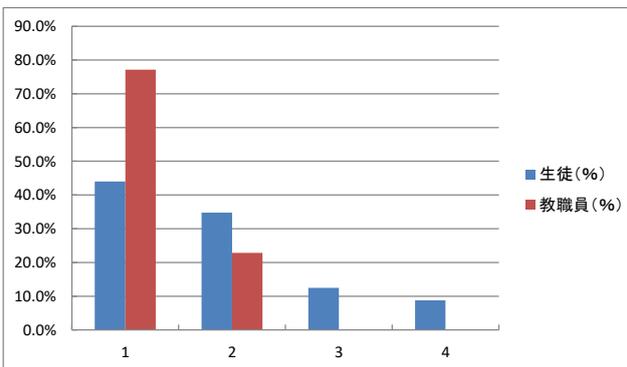


生徒・教職員・保護者の肯定的回答率が上昇した。原則タブレットの持ち帰りを行って、タブレットを使った課題を工夫して出した事が影響していると思われる。ただし、数字が高い訳ではないので、家庭学習を進める工夫を継続して行う必要がある。

- ⑨ (生徒9)
(教職員9) 先生から公平公正に評価されているか。

回答	1	2	3	4
生徒人数	166	131	47	33
教職員人数	27	8	0	0
保護者人数				
生徒(%)	44.0%	34.7%	12.5%	8.8%
教職員(%)	77.1%	22.9%	0.0%	0.0%
保護者(%)				

肯定的回答率(%)	生徒	教職員	保護者
令和4年度	77.4%	94.1%	
令和5年度	82.0%	100.0%	
令和6年度	78.8%	100.0%	

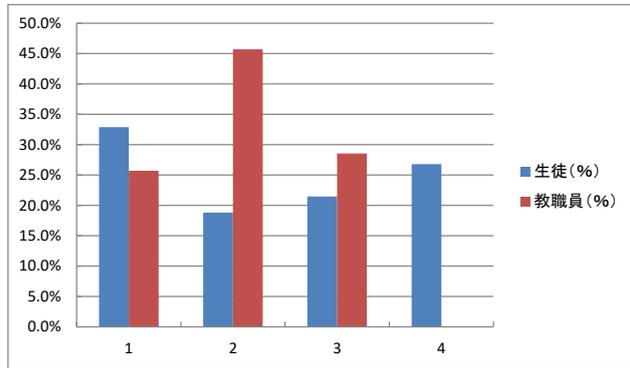


約2割の否定的回答の生徒があるので、年度当初に各教科からシラバス等を利用した学習計画と評価基準の説明と、評価に対する説明責任を再度確認する必要がある。教師が否定的回答をする事はないので設問に教職員を入れるかどうかは来年度の検討事項である。また、教職員の2割が回答(2- ややそう思う)としているのが課題である。

- ⑩ (生徒10) 朝読書の時間を有効に使い、読みたい本を読んでいるか。
(教職員10)

回答	1	2	3	4
生徒人数	124	71	81	101
教職員人数	9	16	10	0
保護者人数				
生徒(%)	32.9%	18.8%	21.5%	26.8%
教職員(%)	25.7%	45.7%	28.6%	0.0%
保護者(%)				

肯定的回答率(%)	生徒	教職員	保護者
令和4年度	69.2%	58.8%	
令和5年度	67.5%	77.1%	
令和6年度	51.7%	71.4%	

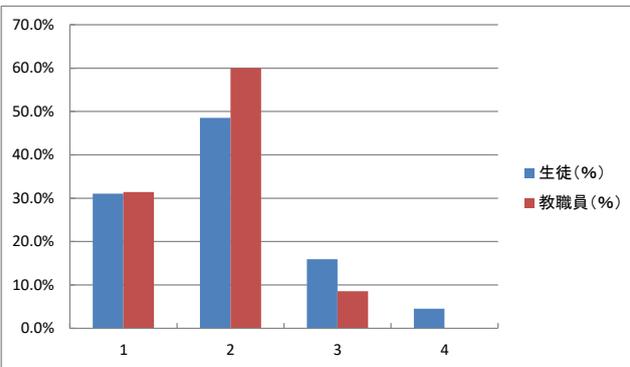


回答(4-思わない)の生徒と教職員の回答率の差が大きいため、読んでいない生徒に対する教職員の声かけが必要である。また、今年度は朝読書の時間は読書が中心だが、朝学習の時間に一部利用することを可能としたが、数字の低下の原因と思われるので、朝読書の時間の使い方の再検討が必要である。

- ⑪ (生徒11) 総合的な学習の時間に意欲的に取り組んでいるか。
(教職員11)

回答	1	2	3	4
生徒人数	117	183	60	17
教職員人数	11	21	3	0
保護者人数				
生徒(%)	31.0%	48.5%	15.9%	4.5%
教職員(%)	31.4%	60.0%	8.6%	0.0%
保護者(%)				

肯定的回答率(%)	生徒	教職員	保護者
令和4年度	57.2%	76.5%	
令和5年度	83.5%	94.3%	
令和6年度	79.6%	91.4%	

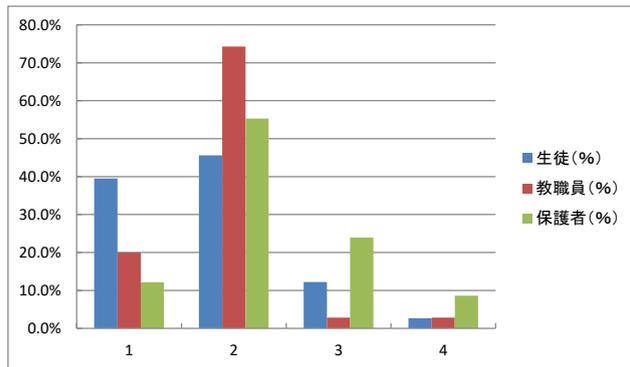


昨年度はコロナ禍で出来なかった様々な体験活動が出来るようになった成果で生徒の数値が大きく上がったが、今年度は生徒・教職員ともに下がっている。昨年度から出来るようになった活動の内容を検証して、毎年新たな取組にチャレンジする必要がある。

- ⑫ (生徒12) 生徒が授業に参加できるように学び合いの場を設定するなど授業づくりの工夫をしているか。
(教職員12)
(保護者6) 先生は、生徒の学力を伸ばすために授業の研究に努めていると思うか。

回答	1	2	3	4
生徒人数	149	172	46	10
教職員人数	7	26	1	1
保護者人数	31	141	61	22
生徒(%)	39.5%	45.6%	12.2%	2.7%
教職員(%)	20.0%	74.3%	2.9%	2.9%
保護者(%)	12.2%	55.3%	23.9%	8.6%

肯定的回答率(%)	生徒	教職員	保護者
令和4年度	81.3%	82.4%	75.2%
令和5年度	90.0%	88.6%	73.2%
令和6年度	85.1%	94.3%	67.5%

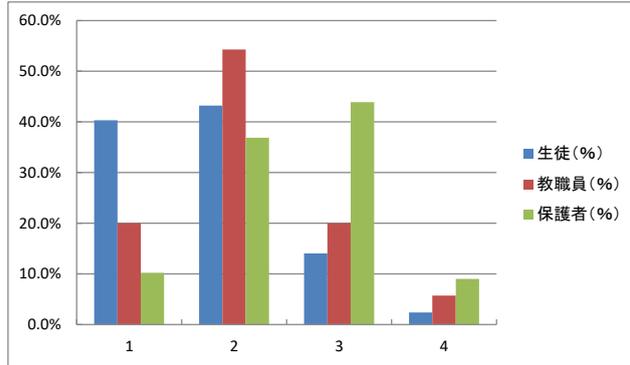


今年度の研究主題である「学び合い学習を中心に据えた授業の展開」を各教科で授業研究など実践しているため、教職員の数値は上昇している。しかし、生徒と保護者の数値は下がっているため、班活動の内容を再考して生徒の変容を意識した学び合いの場を進め、生徒や保護者が学び合いによる効果を得られる授業の展開が必要である。特に保護者の数値が低いので学び合いに対する理解を図る事が課題である。

- ⑬ (生徒13)
(教職員13) あいさつをよくしているか。
(保護者7)

回答	1	2	3	4	
生徒人数	152	163	53	9	377
教職員人数	7	19	7	2	35
保護者人数	26	94	112	23	255
生徒(%)	40.3%	43.2%	14.1%	2.4%	
教職員(%)	20.0%	54.3%	20.0%	5.7%	
保護者(%)	10.2%	36.9%	43.9%	9.0%	

肯定的回答率(%)	生徒	教職員	保護者
令和4年度	85.9%	67.6%	54.3%
令和5年度	88.1%	65.7%	54.5%
令和6年度	83.6%	74.3%	47.1%

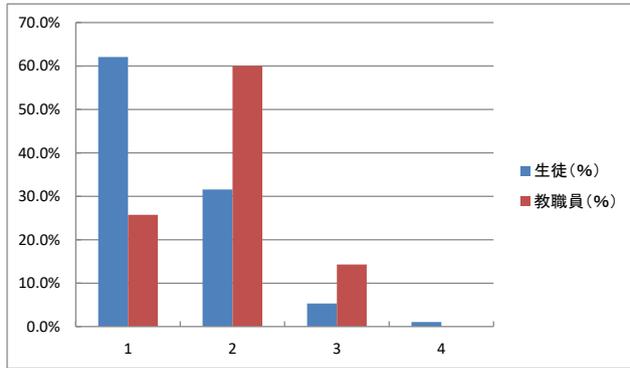


年々生徒の数字が上昇していたが、今年度は生徒・保護者の数値が下がった。特に生徒の数値は高いが保護者の数値が低いので、地域や家庭でもあいさつをしっかりとる促しも必要かもしれない。本アンケートで保護者の数値が最も低い回答になり、大きな課題である。地域を巻き込んだ挨拶運動の推進が課題である。

- ⑭ (生徒14)
(教職員14) 給食や日直・清掃などの当番活動をよくやっているか。

回答	1	2	3	4	
生徒人数	234	119	20	4	377
教職員人数	9	21	5	0	35
保護者人数					0
生徒(%)	62.1%	31.6%	5.3%	1.1%	
教職員(%)	25.7%	60.0%	14.3%	0.0%	
保護者(%)					

肯定的回答率(%)	生徒	教職員	保護者
令和4年度	88.1%	67.6%	
令和5年度	94.7%	88.6%	
令和6年度	93.6%	85.7%	

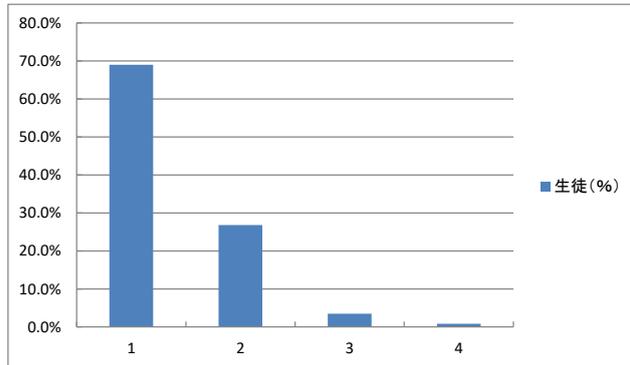


昨年より全体的な肯定的回答率の大きな変化はなく、よい傾向である。今後も継続して生徒がそれぞれの役割を完遂できるよう生徒が自主的な活動ができる工夫をしていく。

- ⑮ (生徒15) 服装等の規則や集団生活をする上でのルールを守っているか。

回答	1	2	3	4	
生徒人数	260	101	13	3	377
教職員人数					0
保護者人数					0
生徒(%)	69.0%	26.8%	3.4%	0.8%	
教職員(%)					
保護者(%)					

肯定的回答率(%)	生徒	教職員	保護者
令和4年度	95.6%		
令和5年度	96.6%		
令和6年度	95.8%		

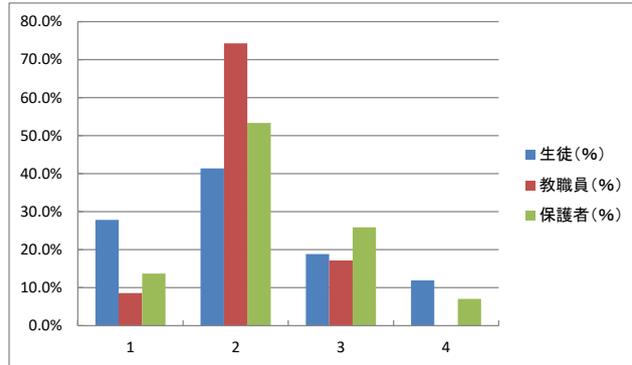


多くの生徒が、規範意識を持って学校生活を送っていると考えられる。ただし、一部の規則やルールを守らない生徒に対する対応を粘り強く行い、保護者との連携を密に取る必要がある。また、来年度は制服の改定があるので、慎重で丁寧な対応を検討していかなければならない。

- ⑩ (生徒16)
(教職員15) 決まりが守られ、秩序ある学校であるか。
(保護者8)

回答	1	2	3	4	
生徒人数	105	156	71	45	377
教職員人数	3	26	6	0	35
保護者人数	35	136	66	18	255
生徒(%)	27.9%	41.4%	18.8%	11.9%	
教職員(%)	8.6%	74.3%	17.1%	0.0%	
保護者(%)	13.7%	53.3%	25.9%	7.1%	

肯定的回答率(%)	生徒	教職員	保護者
令和4年度	85.4%	97.1%	81.0%
令和5年度	92.0%	97.1%	87.0%
令和6年度	69.2%	82.9%	67.1%

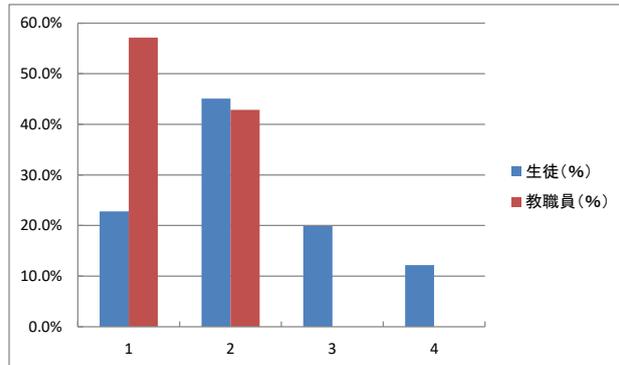


全ての数値が大きく下がっているのは、①の質問の理由と同様であると考えられる。また、前質問にもあったが、一部の決まりを守らない生徒がいることも大きな要因であると考えられる。今後、前質問同様粘り強く、教職員が同じ姿勢で対応していかなければならない。

- ⑪ (生徒17) いじめのない学校であるか。
(教職員16) いじめの早期発見・早期対応に意識して指導をしているか。

回答	1	2	3	4	
生徒人数	86	170	75	46	377
教職員人数	20	15	0	0	35
保護者人数					
生徒(%)	22.8%	45.1%	19.9%	12.2%	
教職員(%)	57.1%	42.9%	0.0%	0.0%	
保護者(%)					

肯定的回答率(%)	生徒	教職員	保護者
令和4年度	76.2%	97.1%	
令和5年度	77.7%	100.0%	
令和6年度	67.9%	100.0%	

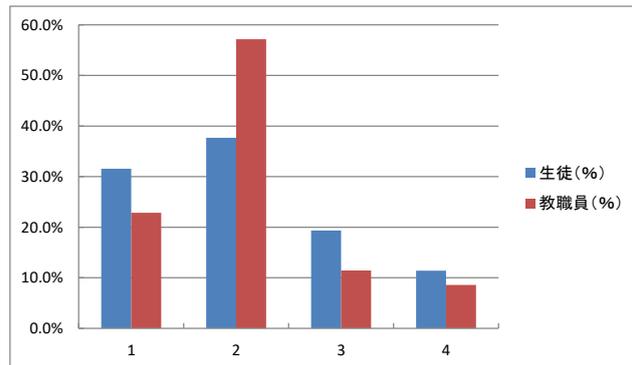


生徒の肯定的回答率が大きく下がっている事は大きな課題である。教員側が気づいていないかもしくは相談できていない事象があると考えなければならない。いじめは絶対に許さないという姿勢と、いじめはどの集団でも起きる可能性があるという観点から今後も生徒理解に努めなければならない。また、教育相談もさらに充実させて、生徒に信頼して相談してもらえる体制を作る必要がある。

- ⑫ (生徒18) どの先生も同じ方針で生徒指導をしているか。
(教職員17)

回答	1	2	3	4	
生徒人数	119	142	73	43	377
教職員人数	8	20	4	3	35
保護者人数					
生徒(%)	31.6%	37.7%	19.4%	11.4%	
教職員(%)	22.9%	57.1%	11.4%	8.6%	
保護者(%)					

肯定的回答率(%)	生徒	教職員	保護者
令和4年度	74.5%	73.5%	
令和5年度	75.2%	71.4%	
令和6年度	69.2%	80.0%	

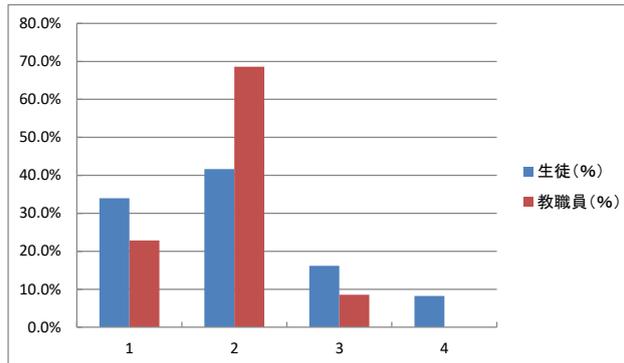


教師の肯定的回答率が上昇したのは生徒指導共有ファイルの活用が有効であると思われる。ただし、生徒の数値が下がっている状態を真摯に受け止め、生徒生徒指導の手引きが形骸化しないように、情報交換を密にして教職員の意識を向上させる必要がある。

- ⑱ (生徒19) 先生は生徒のことをよく理解しているか。
(教職員18)

回答	1	2	3	4
生徒人数	128	157	61	31
教職員人数	8	24	3	0
保護者人数				
生徒(%)	34.0%	41.6%	16.2%	8.2%
教職員(%)	22.9%	68.6%	8.6%	0.0%
保護者(%)				

肯定的回答率(%)	生徒	教職員	保護者
令和4年度	80.1%	88.2%	
令和5年度	79.9%	91.4%	
令和6年度	75.6%	91.4%	

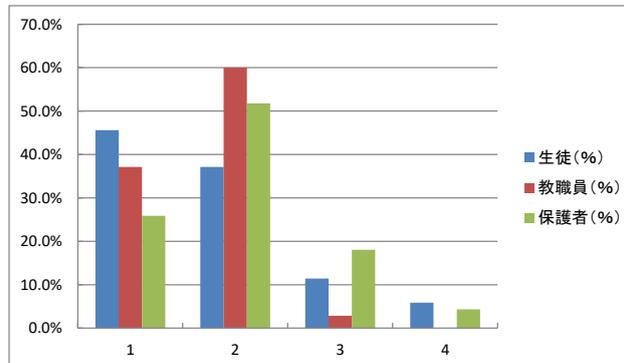


昨年に引き続き、各学年各フロアにて丁寧な見守りを行ったにも関わらず、生徒の肯定的回答率が年々減少している。ふれあいタイムや見守りの対応の再検討が必要である。

- ⑳ (生徒20)
(教職員19) 生徒や保護者の悩みを聞いたり相談に乗っているか。
(保護者9)

回答	1	2	3	4
生徒人数	172	140	43	22
教職員人数	13	21	1	0
保護者人数	66	132	46	11
生徒(%)	45.6%	37.1%	11.4%	5.8%
教職員(%)	37.1%	60.0%	2.9%	0.0%
保護者(%)	25.9%	51.8%	18.0%	4.3%

肯定的回答率(%)	生徒	教職員	保護者
令和4年度	84.7%	88.2%	84.8%
令和5年度	87.6%	94.3%	86.0%
令和6年度	82.8%	97.1%	77.6%

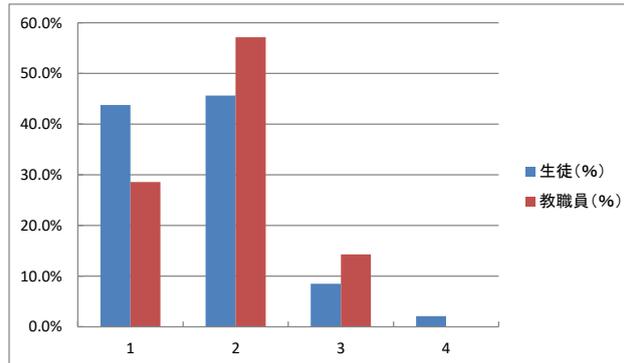


昨年度はコロナ禍で行う事が出来なかった家庭訪問や行事などが出来て、保護者との関係が築けて肯定的回答率が上昇したが、今年度は生徒・保護者の数値は低下している。日常から生徒との交流をさらに大切にして、特に大きく数値が下がった保護者との関係を気づくためにも密な家庭訪問等が必要である。また、生徒・保護者に反して教職員の数値が上昇している事も普段の関わりを見直す必要がある。

- ㉑ (生徒21)
(教職員20) 生徒会や委員会の活動は充実しているか。

回答	1	2	3	4
生徒人数	165	172	32	8
教職員人数	10	20	5	0
保護者人数				
生徒(%)	43.8%	45.6%	8.5%	2.1%
教職員(%)	28.6%	57.1%	14.3%	0.0%
保護者(%)				

肯定的回答率(%)	生徒	教職員	保護者
令和4年度	88.3%	94.1%	
令和5年度	92.0%	82.9%	
令和6年度	89.4%	85.7%	

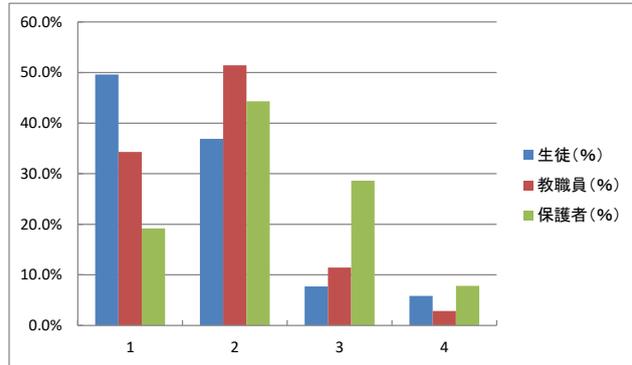


昨年度と大きな変化がなく肯定的回答率の数値は比較的高い。コロナ禍で出来なかった、様々な生徒会活動が再開して定着していると考えられる。今後も新たな取組もチャレンジしながら、さらに充実を図ってきたい。

- ⑳ (生徒22)
(教職員21) 部活動は充実しているか。
(保護者10)

回答	1	2	3	4	
生徒人数	187	139	29	22	377
教職員人数	12	18	4	1	35
保護者人数	49	113	73	20	255
生徒(%)	49.6%	36.9%	7.7%	5.8%	
教職員(%)	34.3%	51.4%	11.4%	2.9%	
保護者(%)	19.2%	44.3%	28.6%	7.8%	

肯定的回答率(%)	生徒	教職員	保護者
令和4年度	89.3%	88.2%	70.5%
令和5年度	91.0%	85.7%	69.9%
令和6年度	86.5%	85.7%	63.5%

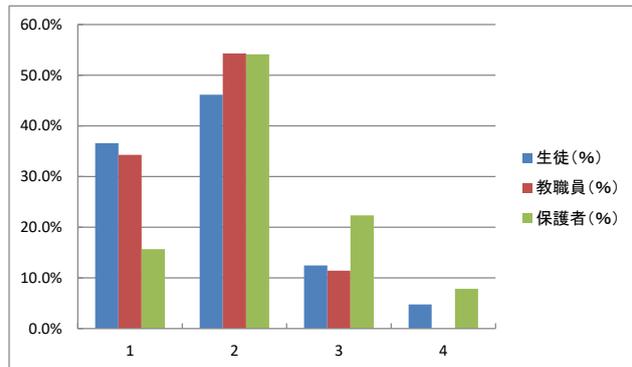


生徒の高い肯定的回答率に対して、保護者の回答率が低い。年度当初を始め、様々な場面で各部活動の積極的で丁寧な情報発信と、保護者への説明の場の設定が必要である。また、今後の部活動の地域移行に対する丁寧な対応と保護者への説明が必要である。

- ㉑ (生徒23)
(教職員22) 人としての生き方を考えさせたり、心を豊かに育てようとしているか。
(保護者11)

回答	1	2	3	4	
生徒人数	138	174	47	18	377
教職員人数	12	19	4	0	35
保護者人数	40	138	57	20	255
生徒(%)	36.6%	46.2%	12.5%	4.8%	
教職員(%)	34.3%	54.3%	11.4%	0.0%	
保護者(%)	15.7%	54.1%	22.4%	7.8%	

肯定的回答率(%)	生徒	教職員	保護者
令和4年度	86.9%	88.2%	74.3%
令和5年度	90.0%	85.7%	74.6%
令和6年度	82.8%	88.6%	69.8%

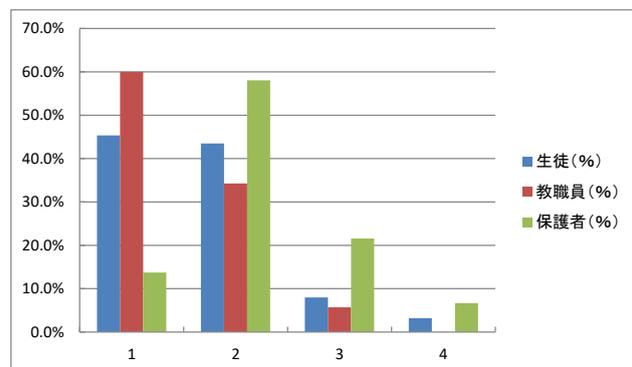


概ね肯定的回答率は高い数値であるが、保護者の数値が減少した。様々な機会を通して、行事の内容だけでなく行事での目的や達成した内容も保護者へ伝える事が課題である。また、地域や保護者と連携して行う取組も検討していく必要がある。

- ㉒ (生徒24)
(教職員23) 全教科領域で人権感覚をもって学習活動を進めているか。
(保護者12)

回答	1	2	3	4	
生徒人数	171	164	30	12	377
教職員人数	21	12	2	0	35
保護者人数	35	148	55	17	255
生徒(%)	45.4%	43.5%	8.0%	3.2%	
教職員(%)	60.0%	34.3%	5.7%	0.0%	
保護者(%)	13.7%	58.0%	21.6%	6.7%	

肯定的回答率(%)	生徒	教職員	保護者
令和4年度	88.1%	94.1%	77.1%
令和5年度	90.0%	97.1%	73.9%
令和6年度	88.9%	94.3%	71.8%

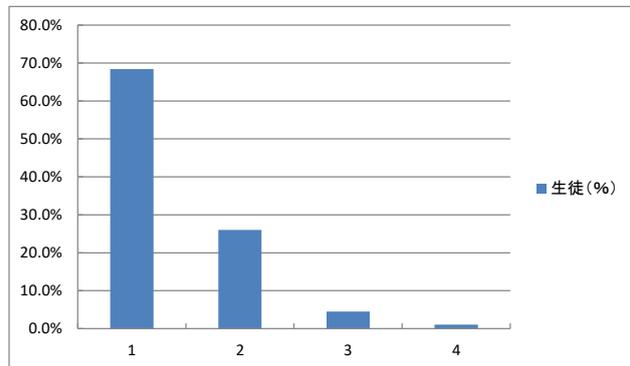


概ね生徒と教職員は高い数値であるが、全ての数値が減少している。教職員の研鑽も行いつつ、学習活動の情報発信をもっと細やかに行う事が課題である。前質問同様、地域や家庭とも連携して取組活動の工夫も検討していく必要がある。

②⑤ (生徒25) 人の役に立つ人間になりたいと思うか。

回答	1	2	3	4
生徒人数	258	98	17	4
教職員人数				
保護者人数				
生徒(%)	68.4%	26.0%	4.5%	1.1%
教職員(%)				
保護者(%)				

肯定的回答率(%)	生徒	教職員	保護者
令和4年度	95.1%		
令和5年度	97.3%		
令和6年度	94.4%		

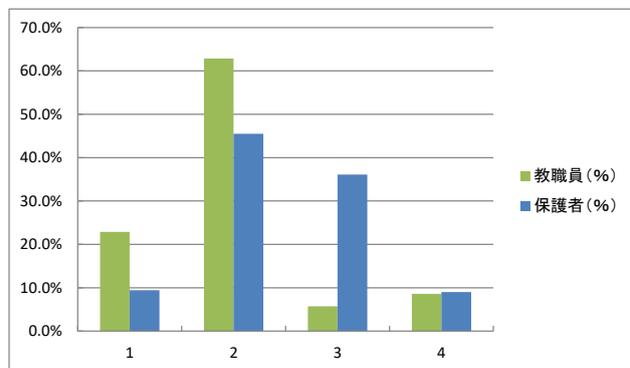


例年と大きく数値が変わらないことは非常に良い傾向である。ほとんどの生徒の肯定的な回答を、学校生活の中で生徒自らが積極的に発信できる環境作りと、その内容をより具体的に実現できる教育活動を行う必要がある。

②⑥ (教職員24) 学校や地域のボランティア活動や行事への参加を積極的に促しているか。
(保護者13)

回答	1	2	3	4
生徒人数				
教職員人数	8	22	2	3
保護者人数	24	116	92	23
生徒(%)				
教職員(%)	22.9%	62.9%	5.7%	8.6%
保護者(%)	9.4%	45.5%	36.1%	9.0%

肯定的回答率(%)	生徒	教職員	保護者
令和4年度		55.9%	52.4%
令和5年度		54.3%	58.2%
令和6年度		85.7%	54.9%

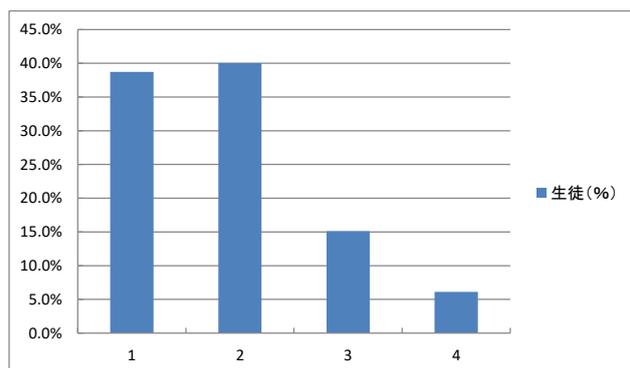


今年度は葛城市制20周年記念事業で多くの地域の活動や行事へ参加する機会が多かった。しかし、保護者の数値は低く情報が届いていないのが課題である。⑬の質問同様に本アンケートの中でも保護者の数値が低い質問なので、発信方法は今後の課題である。

②⑦ (生徒26) 自分にはよいところがあると思いますか。

回答	1	2	3	4
生徒人数	146	151	57	23
教職員人数				
保護者人数				
生徒(%)	38.7%	40.1%	15.1%	6.1%
教職員(%)				
保護者(%)				

肯定的回答率(%)	生徒	教職員	保護者
令和4年度	70.4%		
令和5年度	80.8%		
令和6年度	78.8%		

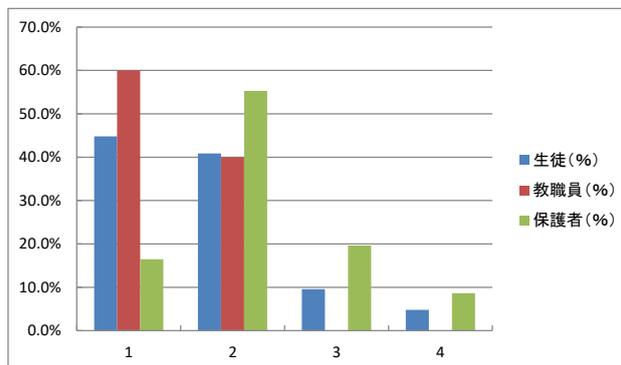


昨年から大きな変化はなかったので教育活動の成果と思われる。ただし、今後も自己肯定感を高める活動を推進していきながらも、残りの2割の否定的回答の生徒の存在をしっかりと認識して、絶え間ない情報収集に努めなくてはならない。

- ⑳ (生徒27)
 (教職員25) 生徒のよいところを認めようとしているか。
 (保護者14)

回答	1	2	3	4	
生徒人数	169	154	36	18	377
教職員人数	21	14	0	0	35
保護者人数	42	141	50	22	255
生徒(%)	44.8%	40.8%	9.5%	4.8%	
教職員(%)	60.0%	40.0%	0.0%	0.0%	
保護者(%)	16.5%	55.3%	19.6%	8.6%	

肯定的回答率(%)	生徒	教職員	保護者
令和4年度	85.4%	97.1%	78.1%
令和5年度	87.6%	100.0%	80.9%
令和6年度	85.7%	100.0%	71.8%



保護者の数値が大幅に下がった。設問⑨同様に教師が否定的な回答をする事はないので設問に教職員を入れるかどうかは来年度の検討事項である。また、教職員の2割が回答(2-ややそう思う)としているのが課題である。

◎ 全体を通して

概ね高い肯定的回答率が多かったが、全体的に生徒・教職員に比べて保護者の否定的回答率が高いことが課題である。地域や保護者へ様々な活動を発信するツールは増えているが、目的や達成内容が伝わっていない事が課題と考えられる。さらに、保護者との信頼関係を築くためにも、さらなる連携の強化と、地域や保護者を巻き込んだ取組の検討も必要である。また、コロナ禍から様々な行事が再開したが、学校行事の精選と内容の再考を行い、新たな取組にチャレンジする事も大切である。教職員の授業力の向上も大きな課題であり、課題を持って校内研修を活性化させる必要もある。